

農作物病害虫発生現況情報（5月） 水稻編

1 もみ枯細菌病、苗立枯細菌病

- (1) 巡回調査では、発生施設率は12.1%（平成23.1%）、発生箱率は0.17%（平成0.42%）であり、いずれも平成より低かった（表1）。
- (2) 腐敗症状苗4サンプルについて菌の分離を行った結果、もみ枯細菌病が2点、苗立枯細菌病が2点であった。

2 苗立枯病

- (1) 巡回調査では、発生施設率は39.4%（平成31.8%）であり、平成よりやや高く、発生箱率は0.05%（平成0.24%）であり、平成より低かった（表1）。
- (2) 関与菌は、ピシウム属菌（ムレ苗含む）、トリコデルマ属菌であった。

3 ばか苗病

- (1) 県内広く発生が確認され、発生箱率は1.53%（平成0.44%）であり、平成より高かった（表1）。一部発生程度の高い施設があった。

表1 育苗施設の病害発生状況（調査日：4月28日～5月11日） 単位：巡回調査施設数

調査地域	調査施設数	病害発生施設数			
		細菌病類	苗立枯病	ばか苗病	
県北部	3 (3)	0 (1)	1 (2)	3 (3)	
県中部	16 (16)	4 (4)	7 (7)	14 (15)	
県南部	11 (12)	0 (0)	3 (5)	10 (10)	
遠野・沿岸部	3 (4)	0 (1)	2 (1)	4 (4)	
合計	33 (34)	4 (6)	13 (15)	32 (32)	
発生施設率 (%)	R3	—	12.1 (17.6)	39.4 (44.1)	97.0 (94.1)
	平成	—	23.1	31.8	89.6
発生箱率 (%)	R3	—	0.17(0.11)	0.05(0.07)	1.53 (0.16)
	平成	—	0.42	0.24	0.44

※ () は令和2年の調査結果

※平成値：H23-R2 10ヶ年

※細菌病類はもみ枯細菌病、苗立枯細菌病

4 イネミズゾウムシ

- (1) 基準圃場（北上市成田）では、5月第4半旬に成虫の侵入が確認された（田植日：5月18日）。
- (2) 5月下旬の巡回調査では、成虫の発生圃場率は4.0%（平年5.0%）であり、平年並であった（図1）。

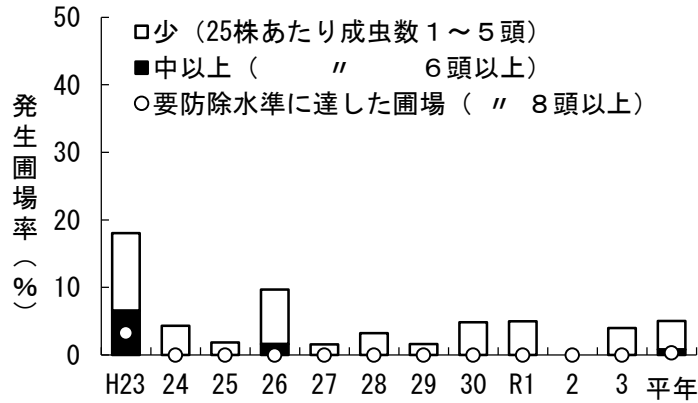


図1 イネミズゾウムシ成虫の発生圃場率の年次推移 (5月下旬)

5 イネドロオイムシ

- (1) 基準圃場（北上市成田）では、5月第5半旬現在、成虫の侵入は確認されていない。
- (2) 5月下旬の巡回調査では、1圃場で成虫の侵入が確認された。

6 イネミギワバエ

- (1) 5月下旬の巡回調査では、産卵がみられた圃場率は16.0%（平年18.7%）であり、平年並であった（図2）。

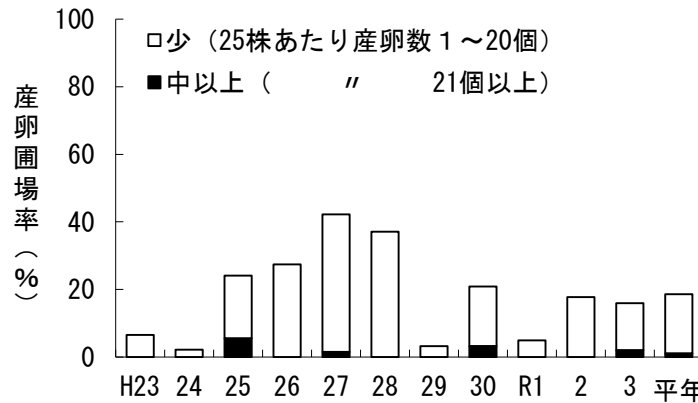


図2 イネミギワバエの産卵圃場率の年次推移 (5月下旬)

7 斑点米カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるすくい取り調査では、5月第3半旬に越冬世代幼虫が確認された。アカスジカスミカメ成虫の発生は確認されていない（表2）。

表2 基準圃場における斑点米カメムシ類すくい取り調査結果（北上市成田、往復20回振）

調査日	成虫 (頭数)		幼虫 (頭数)
	アカスジカスミカメ	アカヒゲホソミドリカスミカメ	
4/30	0	0	0
5/6	0	0	0
5/11	0	0	4
5/18	0	2	5
5/24	0	3	1

農作物病害虫発生現況情報（5月） 麦 編

1 うどんこ病

(1) 5月中旬の巡回調査では、発生は平年並に少なかった(図1)。

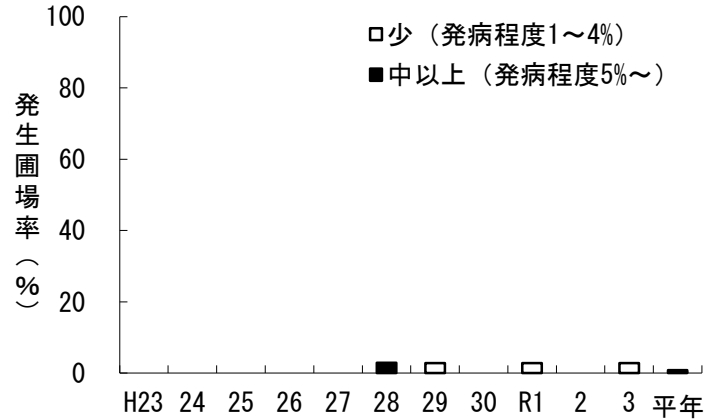


図1 うどんこ病の発生圃場率の年次推移 (5月中旬)

2 さび病類 (赤さび病)

(1) 5月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった(図2)。

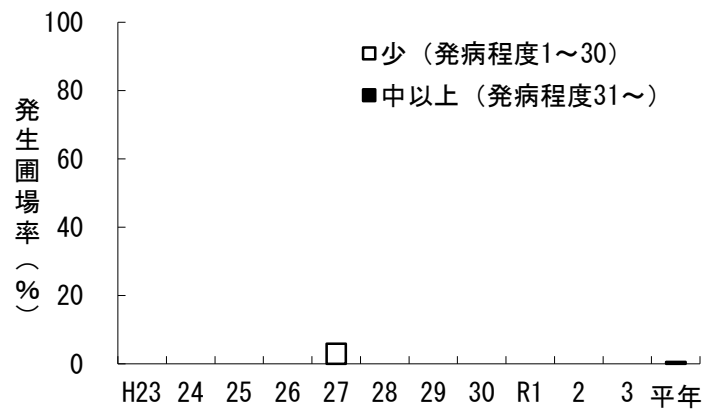


図2 さび病類 (赤さび病) の発生圃場率の年次推移 (5月中旬)

農作物病害虫発生現況情報（5月） りんご編

1 モニリア病

(1) 5月の巡回調査では、発生が確認されなかった（図1）。

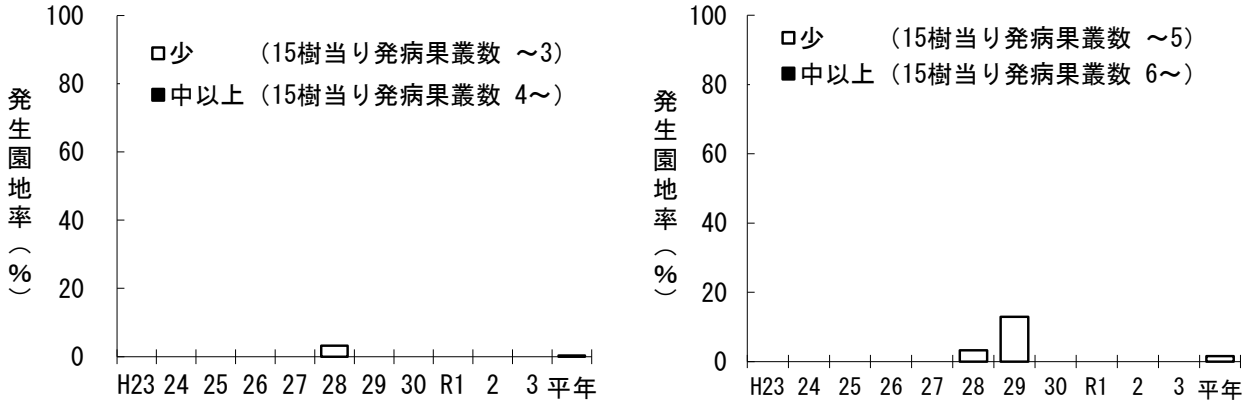


図1 モニリア病の発生園地率の年次推移（左図：5月前半、右図：5月後半）

2 腐らん病

(1) 5月後半の巡回調査での発生園地率は32.3%（平年43.5%）で、平年よりもやや低かったが、発生程度中以上の園地率は3.2%（平年4.2%）で平年並だった（図2）。

(2) 地域別では、県南部の発生程度中以上の園地率が9.1%（平年3.6%）で、平年よりも高かった（図3）。

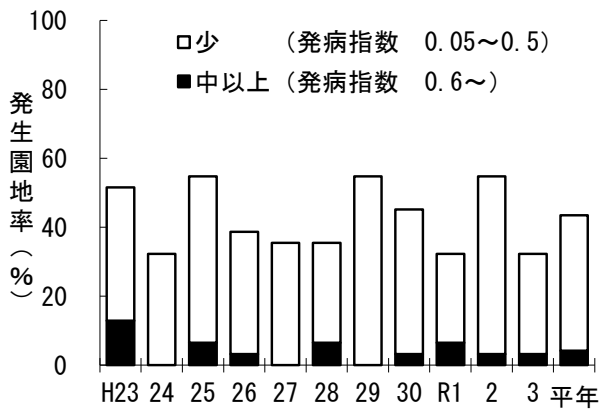


図2 腐らん病の発生園地率の年次推移（5月後半）

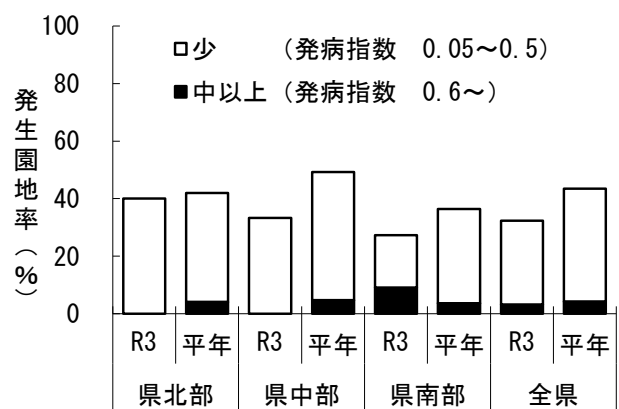


図3 腐らん病の地域別発生園地率（5月後半）

3 斑点落葉病

(1) 基準圃場（北上市・スターキングデリシャス）では、5月24日現在、発生が確認されていない（平年初発：6月第2半旬）。

(2) 5月後半の巡回調査では、ふじ、王林ともに発生が確認されなかった（図4）。

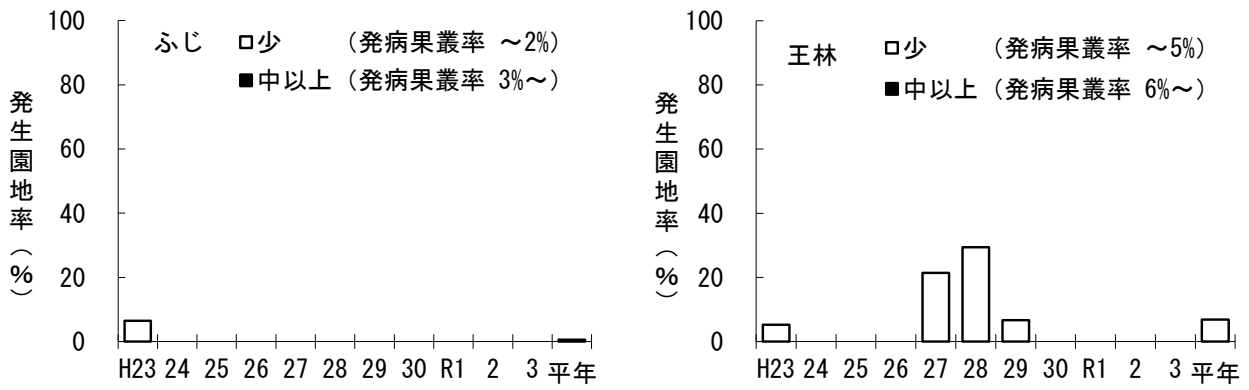


図4 斑点落葉病の発生園地率の年次推移 (5月後半、果叢葉、左図：ふじ、右図：王林)

4 黒星病

(1) 5月後半の巡回調査での発生園地率は3.2% (平年0.6%) で、平年よりも高かった (図5)。

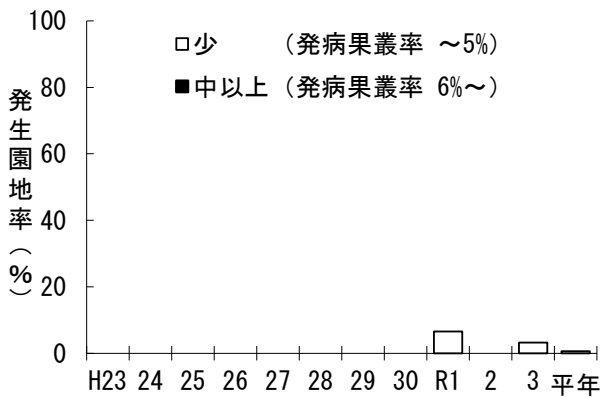


図5 黒星病の発生園地率の年次推移 (5月後半、果叢葉)

5 うどんこ病

(1) 5月後半の巡回調査での発生園地率は3.2% (平年1.6%) で、平年並だった (図6)。

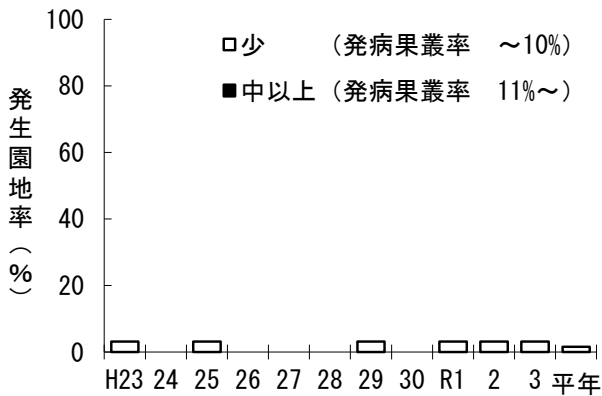


図6 うどんこ病の発生園地率の年次推移 (5月後半、果叢葉)

6 リンゴハダニ

(1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半は3.2%（平年10.0%）で平年より低く、5月後半は12.9%（平年22.6%）で平年よりやや低かった。発生程度中以上の園地は、5月前半、5月後半ともに見られなかった（図7、8）。

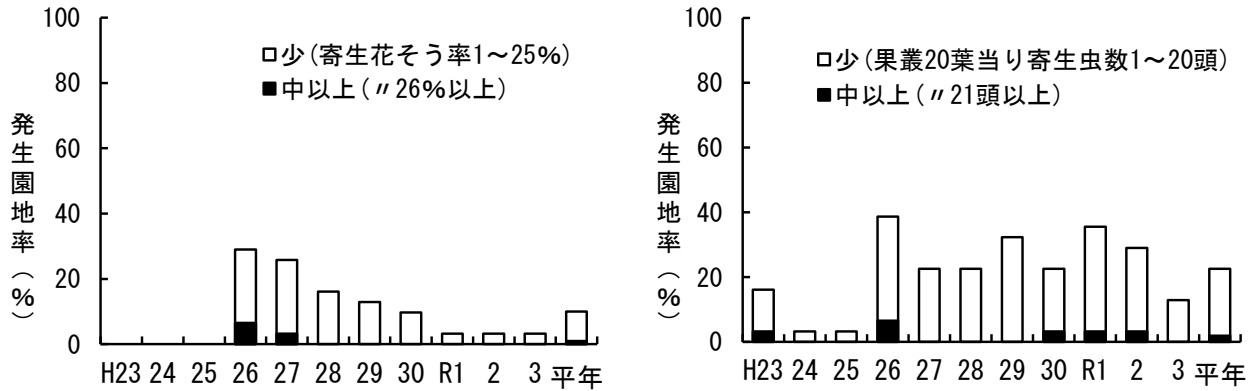


図7 リンゴハダニの発生園地率の年次推移 (左：5月前半、右：5月後半)

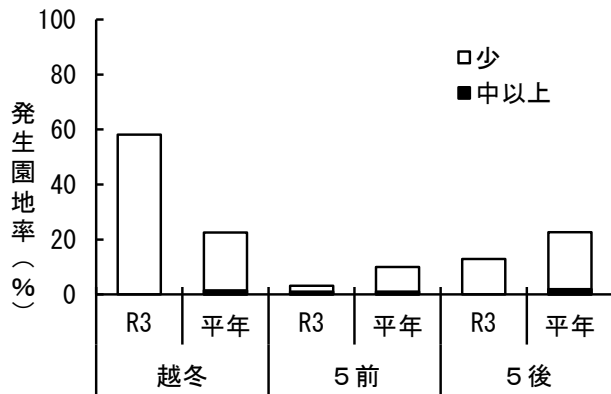


図8 リンゴハダニの時期別発生状況の推移

7 ナミハダニ

(1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半は25.8%（平年25.2%）で平年並であったが、5月後半は22.6%（平年18.1%）で平年よりやや高かった。発生程度中以上の園地は、5月前半は見られず、5月後半は9.7%（平年9.7%）で平年並であった（図9、10）。

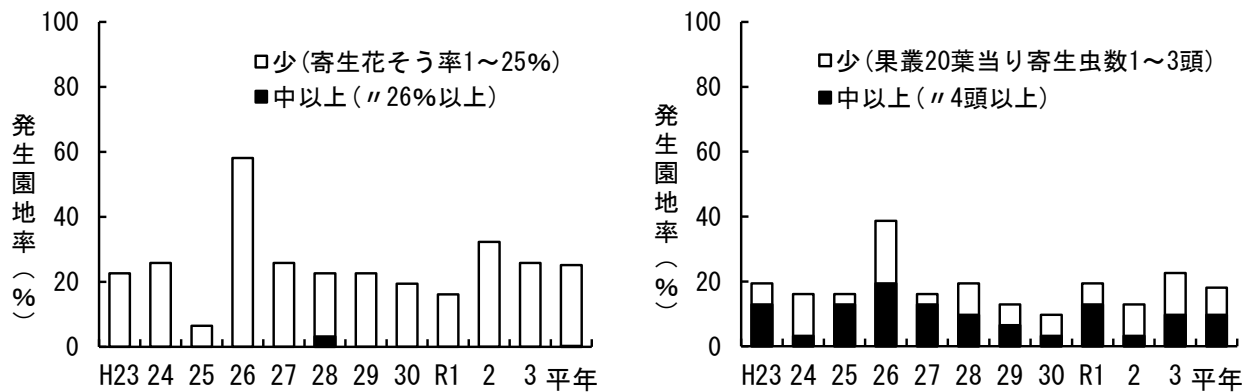


図9 ナミハダニの発生園地率の年次別推移 (左：5月前半、右：5月後半)

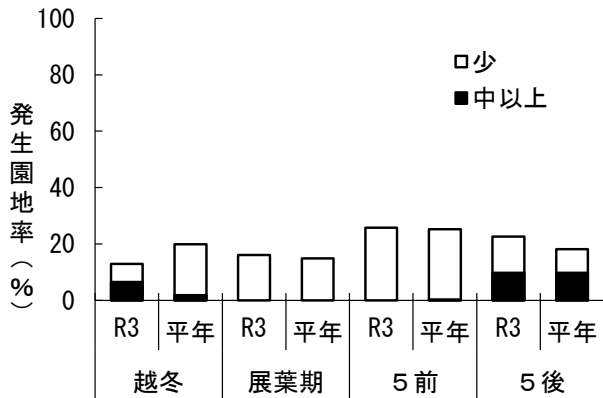


図10 ナミハダニの時期別発生状況の推移

8 ハマキムシ類

(1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半は9.7% (平年17.3%) で平年よりやや低く、5月後半は19.4% (平年14.2%) で平年よりやや高かった (図11)。

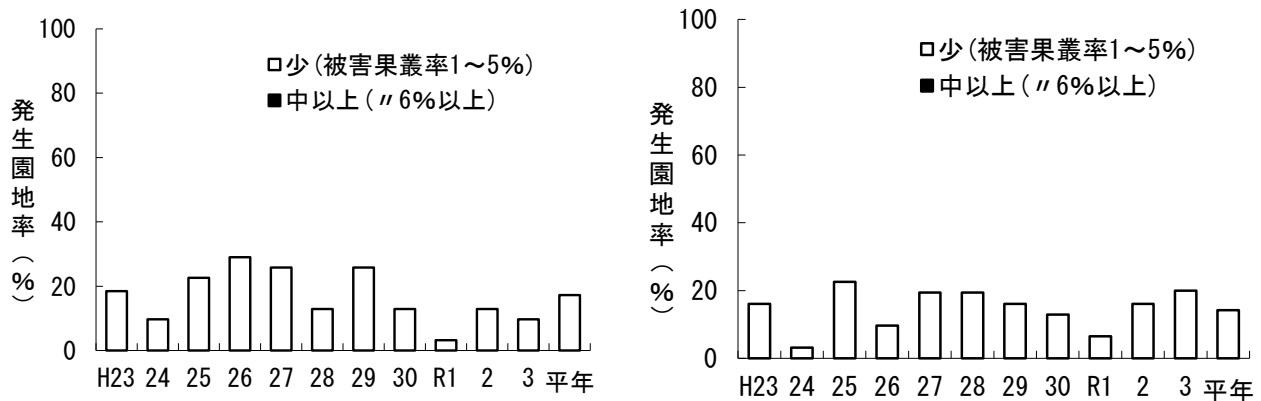


図11 ハマキムシ類の発生園地率の年次推移 (左：5月前半、右：5月後半)

9 ギンモンハモグリガ

(1) 5月後半の巡回調査での第1世代幼虫の発生園地率は0% (平年13.5%) であった (図12 (ページ左下))。

10 アブラムシ類

(1) 5月前半の巡回調査での発生園地率は58.1% (平年43.0%) で、平年よりやや高かった (図13)。

(2) 発生が見られた種は、リンゴクビレアブラムシであった。

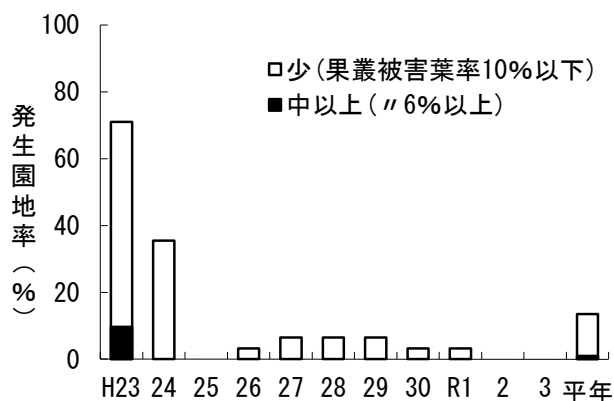


図12 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移 (5月後半)

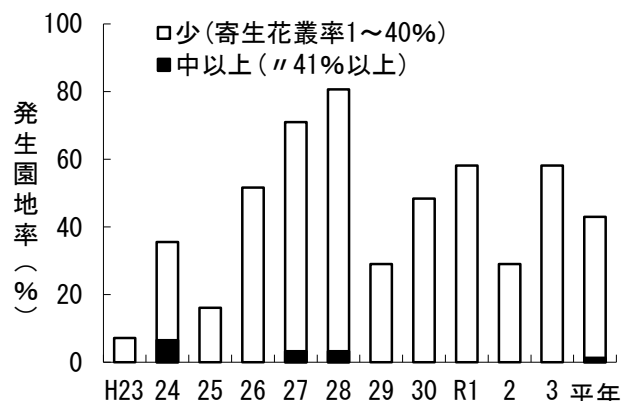


図13 アブラムシ類の発生園地率の年次推移 (5月前半)

11 ヤナギリリチョッキリ

(1) 5月後半の巡回調査での発生園地率は12.9% (平年20.5%) で、平年並であった (図14)。

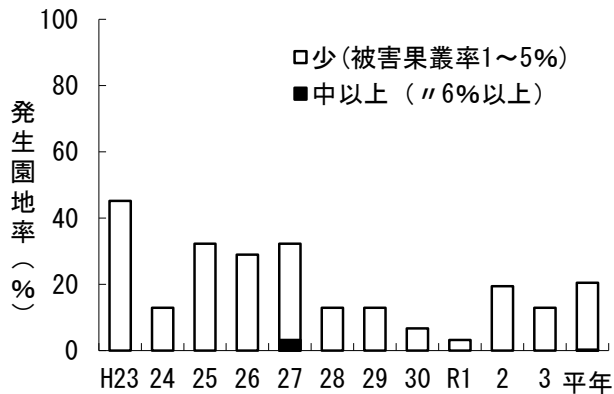


図14 ヤナギリリチョッキリの発生園地率の年次推移(5月後半)

12 モモシンクイガ

(1) 基準圃場 (北上市成田) におけるフェロモントラップには、5月第5半旬まで誘殺は見られなかった (図省略)。

13 キンモンホソガ

(1) フェロモントラップにおける越冬世代の誘殺は、基準圃場 (北上市成田) では平年より2半旬早い4月第4半旬にピークが認められた (図15、表1)。

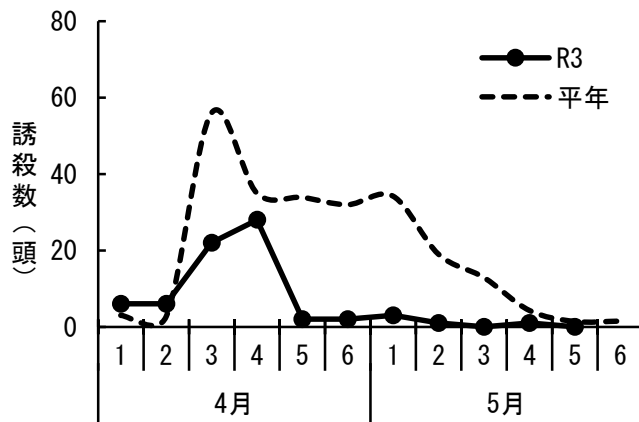


図15 基準圃におけるキンモンホソガの誘殺状況 (北上市成田、無防除)

表1 基準圃場 (北上市成田) における平年の羽化盛期

越冬世代	第1世代	第2世代	第3世代
4月第6半旬	6月第4半旬	7月第5半旬	9月第1半旬

※平年値はH23~R2の月半旬の平均より算出

14 果樹カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、無防除）及び現地3園地（盛岡市川目、北上市更木、一関市大東町）の集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、半旬あたり0～1頭程度で、いずれも平年並に少なかった（図16）。
- (2) 予察灯におけるクサギカメムシの誘殺は、盛岡市川目、北上市更木とも5月第5半旬までは確認されていない（図17）。

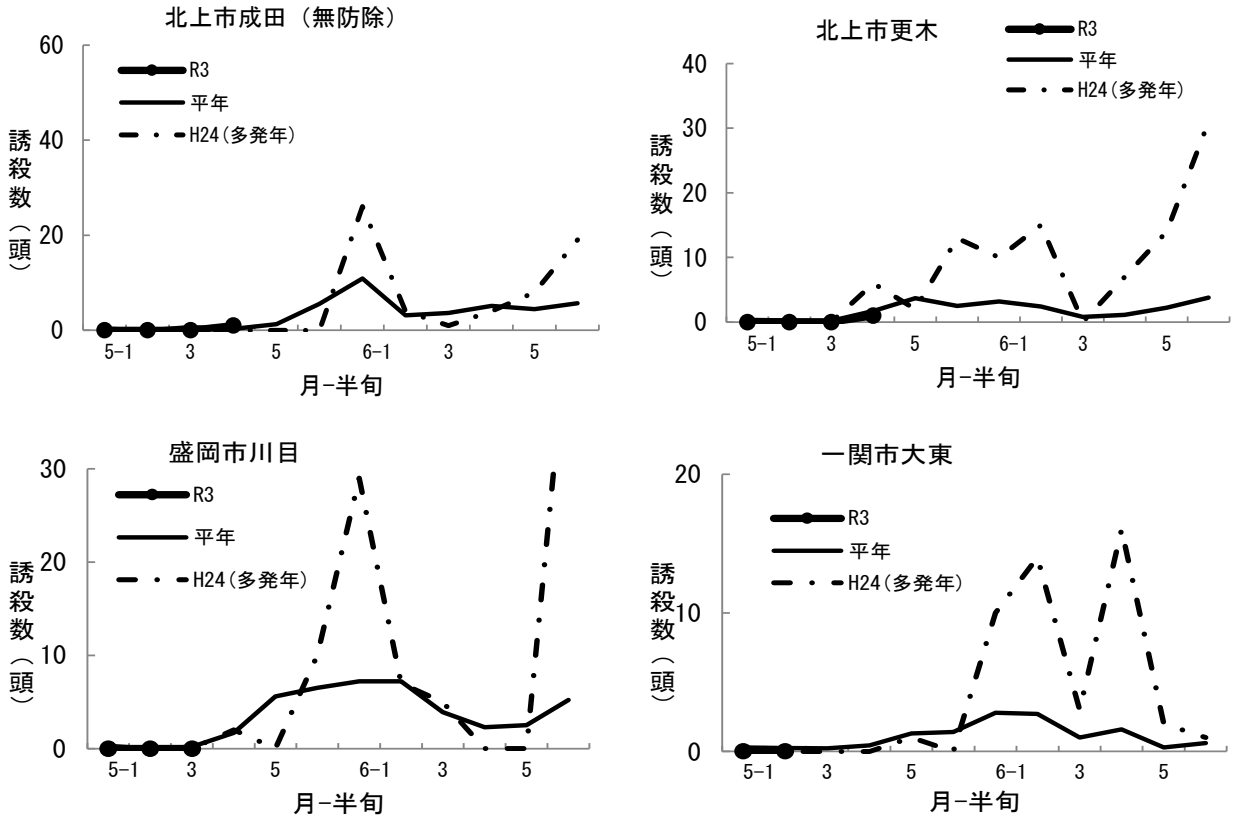


図16 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況

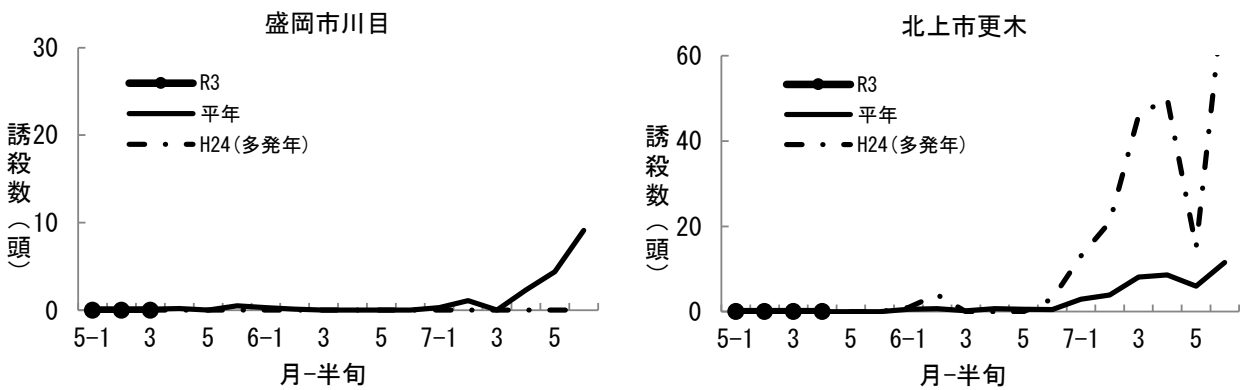


図17 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況

農作物病害虫発生現況情報（5月）キャベツ編

1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺は、平年並の3月第6半旬から認められ、誘殺数は平年より少なく推移している（図1）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺は、平年よりも早い3月第6半旬から認められ、誘殺数は平年並に推移している（図2）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺は5月第1半旬から認められ、誘殺数は平年よりも多く推移している（図3）。
- (4) 5月の巡回調査では、産卵圃場は確認されなかった（平年24.3%、図4）。

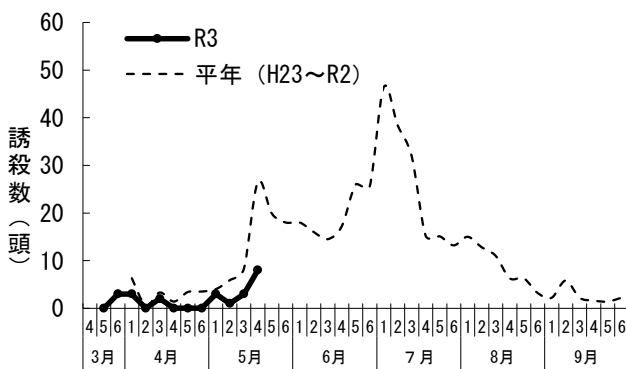


図1 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップの誘殺状況

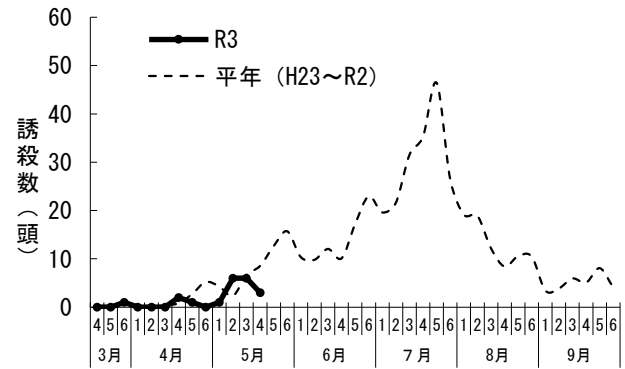


図2 軽米町におけるフェロモントラップの誘殺状況

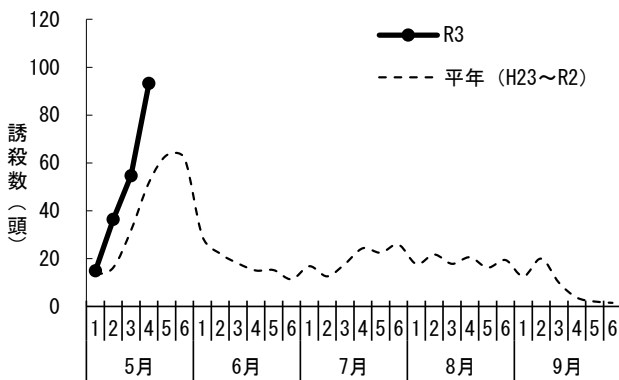


図3 岩手町におけるフェロモントラップの誘殺状況

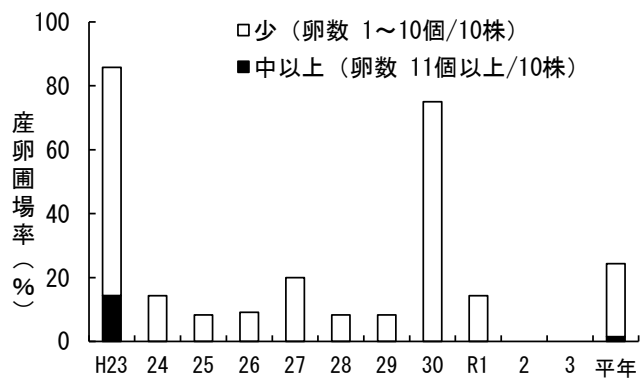


図4 コナガの産卵圃場率の年次推移 (5月中旬)

2 モンシロチョウ

(1) 5月の巡回調査では、産卵圃場率は8.3%（平年63.2%）であり、平年より低かった（図5）。

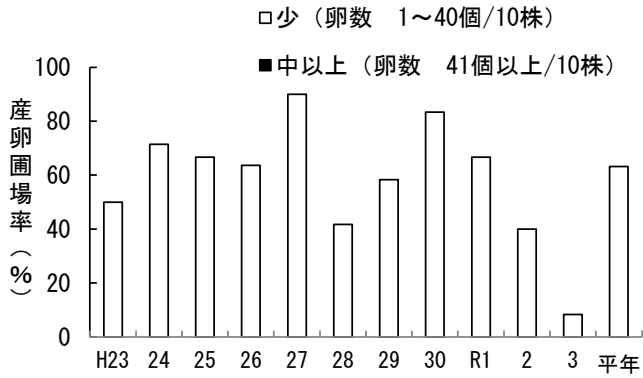


図5 モンシロチョウの産卵圃場率の年次推移
(5月中旬)

3 ヨトウガ

(1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺は、5月第4半旬に確認された（図6）。

(2) 基準圃場における産卵は、5月第5半旬までに確認されていない（平年5月第6半旬）。

(3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺は、5月第1半旬から確認された（図7）。

(4) 5月の巡回調査では、産卵は例年通り確認されなかった。

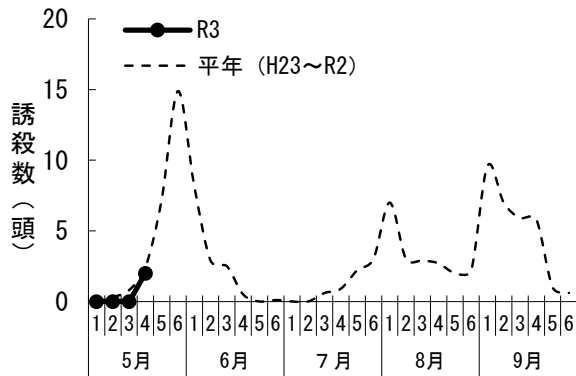


図6 基準圃場（北上市成田）におけるヨトウガのフェロモントラップの誘殺状況

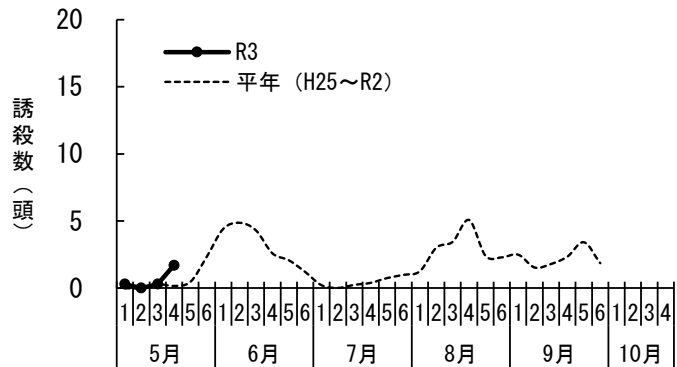


図7 岩手町におけるヨトウガのフェロモントラップの誘殺状況

4 タマナギンウワバ

- (1) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺は、5月第3半旬から確認され、誘殺数は平年よりも少なく推移している（図8）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺は、4月第3半旬から確認され、誘殺数は平年並に推移している（図9）。
- (3) 5月の巡回調査では、産卵圃場率は16.7%（平年37.9%）であり、平年より低かった（図10）。

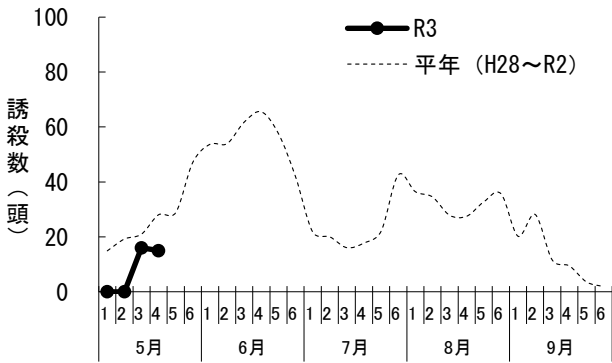


図8 岩手町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップの誘殺状況

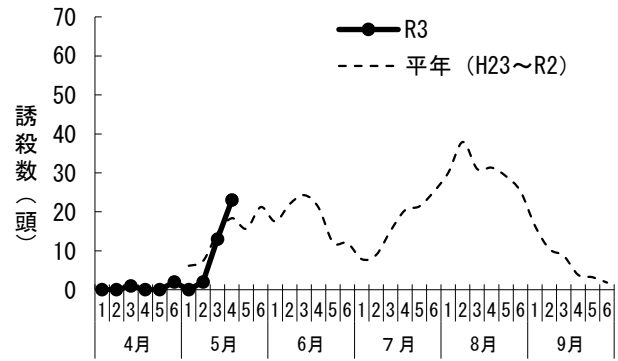


図9 軽米町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップの誘殺状況

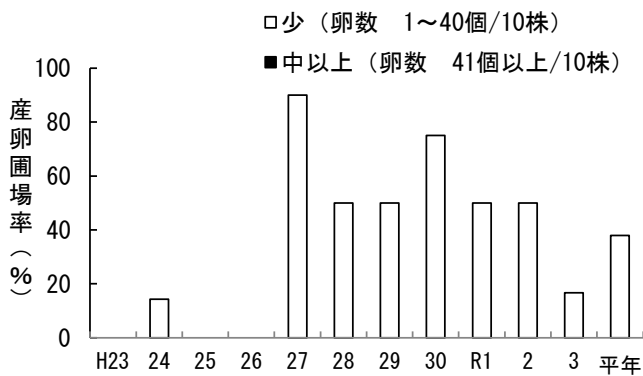


図10 タマナギンウワバの産卵圃場率の年次推移 (5月中旬)

農作物病害虫発生現況情報（5月） ねぎ編

1 さび病

(1) 5月下旬の巡回調査では、発生が確認されなかった（図1）。

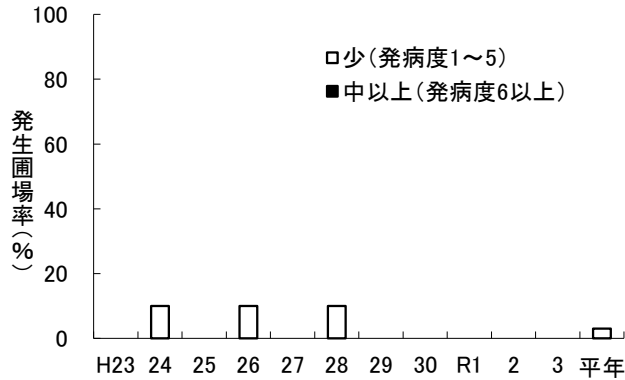


図1 さび病の発生圃場率の年次推移
(5月下旬・発病度)

2 べと病

(1) 5月下旬の巡回調査では、例年どおり発生が確認されなかった。

3 ネギコガ

(1) 5月下旬の巡回調査では、発生圃場率は10.0%（平均32.6%）であり、平均よりも低かった（図2）。

(2) 5月中旬から下旬にかけての被害葉率は、平均よりも低く推移している（図3）。

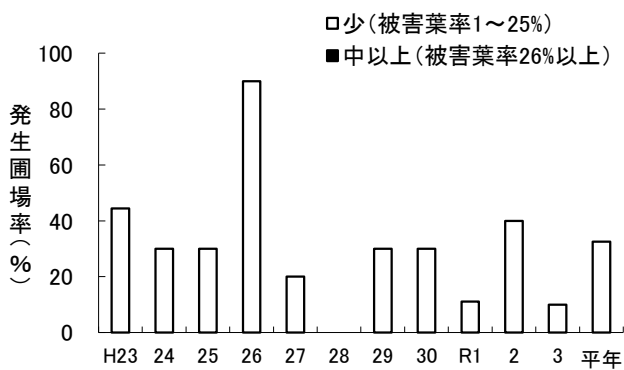


図2 ネギコガの発生圃場率の年次推移
(5月下旬)

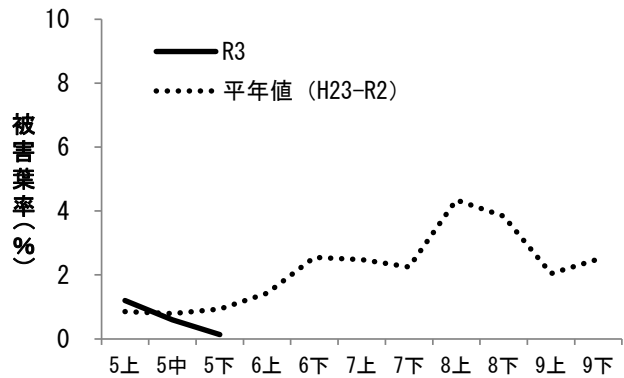


図3 ネギコガによる被害葉率の時期別推移

4 ネギハモグリバエ

- (1) 5月下旬の巡回調査では、発生圃場率は30.0%（平年9.1%）であり、平年よりも高かった（図4）。
- (2) 5月下旬の被害度は、平年よりも高かった（図5）。

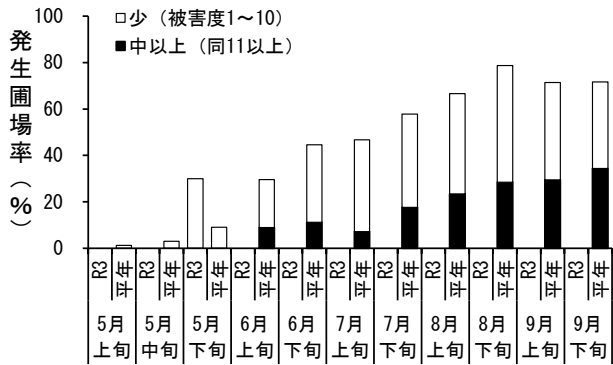


図4 ネギハモグリバエの発生圃場率の時期別推移

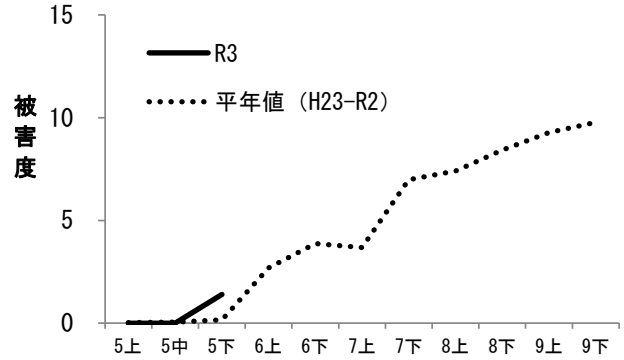


図5 ネギハモグリバエによる被害度の時期別推移

【被害度】調査株の被害程度を甚・多・中・少・無の5段階で評価し、次式により算出

$$\text{被害度} = \frac{(\text{甚の株数} \times 4 + \text{多の株数} \times 3 + \text{中の株数} \times 2 + \text{少の株数})}{(\text{調査株数} \times 4)} \times 100$$

5 ネギアザミウマ

- (1) 5月下旬の巡回調査では、発生圃場率は100%（平年60.1%）であり、平年よりも高かった（図6）。
- (2) 5月下旬の被害度は、平年よりも高かった（図7）。

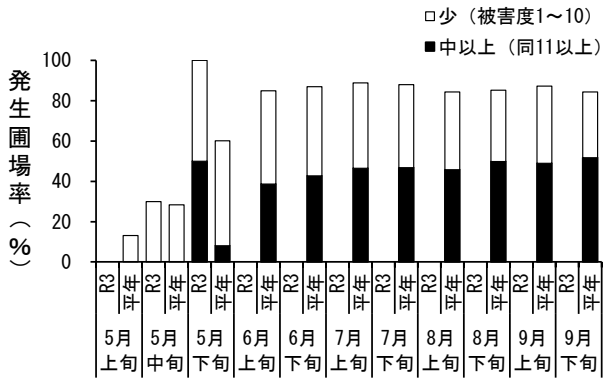


図6 ネギアザミウマの発生圃場率の時期別推移

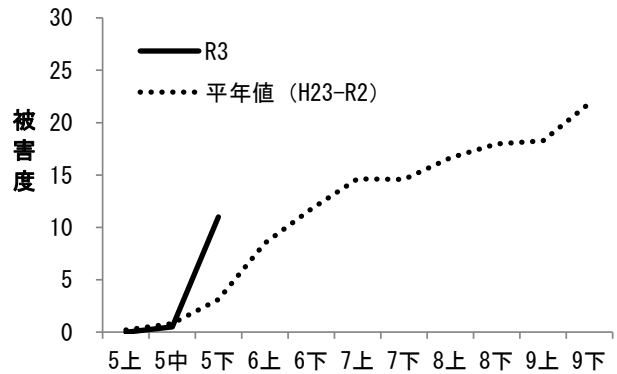


図7 ネギアザミウマによる被害度の時期別推移

【被害度】調査株の被害程度を甚・多・中・少・無の5段階で評価し、次式により算出

$$\text{被害度} = \frac{(\text{甚の株数} \times 4 + \text{多の株数} \times 3 + \text{中の株数} \times 2 + \text{少の株数})}{(\text{調査株数} \times 4)} \times 100$$

農作物病害虫発生現況情報（5月）りんどう編

1 葉枯病

(1) 5月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年：2.9%、図1）。

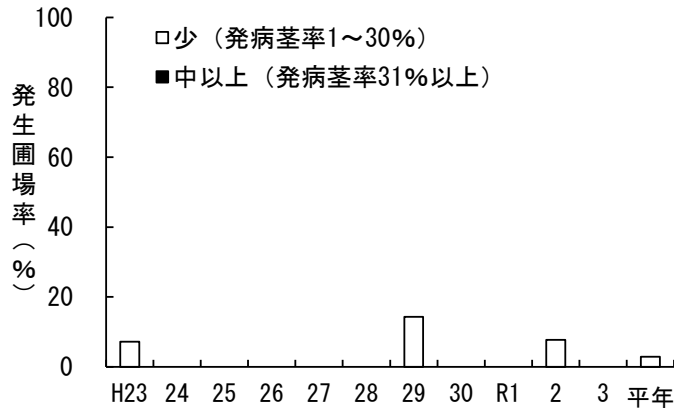


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移（5月後半）

2 ハダニ類

(1) 5月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年：15.0%、図2）。

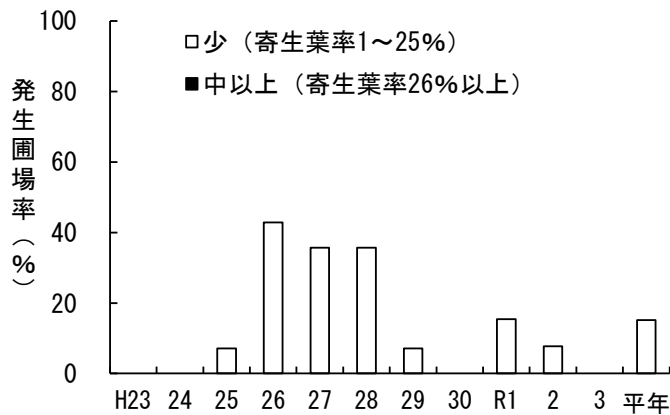


図2 ハダニ類の発生圃場率の年次推移（5月後半）

3 リンドウホソハマキ

(1) 基準圃場（北上市）では、5月第4半旬に越冬幼虫の羽化が確認された。

(2) 巡回調査では、5月第4半旬に1圃場で越冬幼虫の羽化が確認された。